

研究活動

佐藤隆彦

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又 は発表 の年月	発行所、発表雑誌又 は発表学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合の み記入)	該当頁数
(著書)						
1. 『密教の実践 解説』密 教大系第9巻	共著	1994. 11 (平成6年11月)	法蔵館		松長有慶と共著	
2. 『真言宗の法式』乾	共著	1996. 2 (平成8年2月)	斎々坊	真言宗の法式について各流派にわたる ともに、初めて写真で解説した書物	添野智謙・新井弘順 佐藤正伸	
3. 『真言宗の法式』坤	共著	1997. 4 (平成9年4月)	斎々坊	真言宗の法式について各流派にわたる ともに、初めて写真で解説した書物		
4. 守覚法親王と仁和寺御 の文献学的研究 「守覚法親王作『十八道 第』について」	共著	1998. 2 (平成10年2月)	勉誠社	論文篇	阿部泰朗・山崎 誠 上川通夫・土谷 恵 小島裕子・佐藤正伸 横内祐人・福島金治 松 菡 斉・松尾恒一	389-416頁
5. 仏教における日常生活 「真言宗における灌頂」 意義	共著	1998. 8 (平成10年8月)	平楽寺書店		清水 乞・平井有慶 武 覚超・岡 亮二 紅様英顕・徳永大信 高城宏明・佐藤正伸 角田泰隆・中尾良信 鎌主良敬・一楽 真 田代俊孝・皆川広義 田中典彦・芳村博実 前田惠學・鈴木岩弓 山口しのぶ・山極伸之 前谷忠昭・Shoryu Katsura 鈴木岩弓・池上要靖 阿 理生・下田正弘	
6. 四度加行 上	単著	2000. 12 (平成12年12月)	四季社	十八道次第の典拠となる『無量寿軌』 十八契印』、金剛界次第の典拠となる 蓮華部心軌』についての研究		
7. 四度加行 中	単著	2001. 7 (平成13年7月)	四季社	胎藏次第の典拠となる『青龍軌』 についての研究		
8. 四度加行 下	共著	2002. 1 (平成14年1月)	四季社	護摩次第の典拠となる『瑜伽護摩軌』 『建立護摩軌』についての研究	北原裕全と共著	255-477頁
9. 『三僧記類聚』に関する 合的研究	共著	2002. 3 (平成14年3月)	高野山大学文学部 研究代表武内孝善	『三僧記類聚』に関する総合的研究	武内孝善、竹内 信夫と共著	224-247頁
10. 別行次第秘記 一	単著	2002. 12 (平成14年12月)	四季社	浄厳撰述『別行次第秘記』について の研究		
11. 成賢作法集	共著	2003. 6 (平成15年6月)	四季社	真言祈祷大系Ⅲ 編集代表をつとめる とともに解説を執筆	川崎一洋と共著	502-530頁
12. 御流神道竪横印信	共著	2003. 7 (平成15年7月)	四季社	真言祈祷大系Ⅱ 編集代表をつとめる とともに解説を執筆	北原裕全と共著	504-506頁
13. 家族のあり方と仏教	共著	2004. 1 (平成16年1月)	平楽寺書店		土田隆太郎 等同俊英 立川武蔵他27名 で執筆	163-175頁
14. 密教史概説の手引き	共著	2004. 3 (平成16年3月)	高野山大学通信教育室		武内孝善、奥山 直司と共著	63-69頁
15. 真言宗祈願作法集成	共著	2005. 3 (平成17年3月)	四季社	共同編集と解説を担当	小林弘潤、曾根義泉 辻雅榮 美松寛昭 と共同編集	318-328頁
16. 真言宗祈願作法手文三巻	共著	2005. 6 (平成17年6月)	四季社	上記12の本を実用的に次第にしたもの	12と同	
17. 阿字観の実習とその 現代的意義	単著	2010. 2 (平成22年2月)	高野山大学	高野山大学 いのちのセミナー テキスト		

18. 受戒について	単著	2010. 3 (平成22年3月)	大本山大覚寺	サーガラ叢書12として刊行されたもので、受戒の意義について述べたもの		
19. 灌頂儀礼とその信仰	共著	2014. 9 (平成26年9月)	平楽寺書店	『日本仏教学会年報』79号を単行本と出版したもの		
27. 引導作法の研究	共著	2015. 9 (平成27年9月)	高野山真言宗布教研究	引導作法の歴史について学術的方面から考察したもの	加地伸行 壽山良光 今村純訓密門光範 米田弘仁と共著	145-224頁
(学術論文)						
1. 『十八道念誦次第』の特徴について(Ⅰ)	単著	1986. 3 (昭和61年3月)	密教学会報25 高野山大学			72-85頁
2. 『十八道念誦次第』の特徴について(Ⅱ)	単著	1987. 3 (昭和62年3月)	密教学会報26 高野山大学			84-98頁
3. 理趣経法について	単著	1988. 3 (昭和63年3月)	宗教研究275			183-184頁
4. 『五輪投地次第』の作者について	単著	1988. 3 (昭和63年3月)	密教学研究20 日本密教学会			73-84頁
5. 『胎蔵略次第』について	単著	1989. 12 (平成元年12月)	密教文化167 高野山大学			22-31頁
6. 『十八道念誦次第』について－結界法を中心として－	単著	1991. 2 (平成3年2月)	密教文化173 高野山大学			54-72頁
7. 『胎蔵大法対受記』について(一)－円珍の説を心として(上)	単著	1991. 2 (平成3年2月)	高野山大学論叢26 高野山大学			73-97頁
8. 護身法について	単著	1993. 5 (平成5年5月)	高野山大学論叢28 高野山大学			1-16頁
9. 勸請法について－『十道念誦次第』を中心とし	単著	1994. 3 (平成6年3月)	密教学研究26 日本密教学会			123-135頁
10. 『十八道念誦次第』の立過程について	単著	1995. 2 (平成7年2月)	高野山大学論叢30 高野山大学			1-20頁
11. 浄厳の一座行法理解について－『別行次第秘記』中心として－	単著	1996. 3 (平成8年3月)	印度学仏教学研究 88 44-2 日本印度学仏教学会			254-258頁
12. 『一法界ソリヤ法』について	単著	1996. 9. (平成8年9月)	高野山大学創立百十周年記念 高野山大学論文集			171-185頁
13. 浄三業について	単著	1997. 1 (平成9年1月)	密教文化研究所紀要 10			37-61頁
14. 空海作十八道次第の研究	単著	1997. 3 (平成9年3月)	空海研究 福建美術出版			301-315頁
15. 『五輪投地次第』について	単著	1998. 1 (平成10年1月)	密教文化研究所紀要 密教文化研究所			81-186頁
16. 真言宗における灌頂の義	単著	1998. 4 (平成10年4月)	日本仏教学会年報 63号			107-120頁
17. 日本密教受容の背景についての一考察－浄行をワードとして－	単著	1999. 1 (平成11年1月)	高野山大学密教文化 研究所紀要別冊 1			35-60頁
18. 密教福祉と阿字観－阿字観の無限の可能性－	単著	2001. 3 (平成13年3月)	密教福祉1号			130-150頁
19. ターミナルケアと阿息観－真言宗における死と看取	単著	2002. 3 (平成14年3月)	密教福祉2号			99-120頁

20. 密教学と密教福祉	单著	2004. 5 (平成16年5月)	日本仏教学会年報69号			163-175頁
21. 真言密教における在家と 関わり—現代的意義を論ず のに欠くべからざる視点—	单著	2007. 3 (平成19年3月)	密教学研究39号			71-84頁
22. The Modern Significance of Shngon Esoteric Meditation	单著	2008. 9 (平成20年9月)	ExecutiveCommittee koyasan University			66-77頁
23. 『真言宗古字書資料集』 説	单著	2009. 3 (平成21年3月)	高野山大学密教文化研 究所刊			1-32頁
24. 秘密灌頂について —天台密との関わりについて—	单著	2010. 3 (平成22年3月)	密教学研究42号			27-47頁
25. 灌頂儀礼とその信仰	单著	2014年8月 (平成26年8月)	日本仏教学会年報79号			1-22頁
26. 中院院所伝の『理趣經 について—『一法界ソリヤ 法』を中心として—	单著	2015年12月 (平成27年12月)	印度学仏教学研究64-1			12-18頁
27. 天台密教の灌頂について —三部灌頂説の再検討— (その他)	单著	2016年2月 (平成28年2月)	高野山大学論叢51卷			1-16頁
1. 新刊紹介『真言密教印 写真解説』		1991. 3 (平成3年3月)	密教学研究23 日本密教学会			218-222頁
2. 密教を知るための手引 『事相』		1994. 3 (平成6年3月)	密教学会報33 高野山大学	解説		155-173頁
3. 伝授受法 (安祥寺流・勸修寺流・ 心院流・三宝院流・西大 流・西院流・保寿院流・ 摩山流・伝法院流・小島 流・中院流・持明院流・ 沢諸法流・御流神道)						
4. 『密教を知るための ブックガイド』	共著	1995. 11 (平成7年11月)	法蔵館			207-227頁
5. 新安流四度口訣集 上・中・下巻		1996. 4 (平成8年4月)	隆昌堂	編集・校正		
6. 高野山七弁天		1996. 7 (平成8年7月)	高野山大学学報36			13-17頁
7. 祈祷(『日本の仏教』6)	共著	1996. 8 (平成8年8月)	法蔵館			84-88頁
8. 生命倫理シンポジウム 死と看取り		1996. 2 (平成8年2月)	高野山時報に掲載 (10回)			
9. 稲荷大会参加雑感		1997. 6 (平成9年6月)	宗教民俗研究第7号 宗教民俗研究会			111-112頁
10. 『覚禪鈔』についての 文献学的研究		1999. 11 (平成11年11月)	鹿島美術研究 年報16号別冊	共同報告 代表：上川通夫		
11. 絆	共著	2007. 6 (平成19年6月)	高野山大学	高野山大学人権講話集		46-51頁
12. 教学再考～私たちはいか して法を伝えていくか～	共著	2015. 3 (平成27年3月)	智山伝法院	現代密教26号 特別講習会講演録		169-227頁

密教文化研究所兼任研究所員 高野山学園評議員

